

自己評価報告書

(令和3年度 学校評価)

令和4年1月13日

学校法人 山口学園
長崎公務員専門学校

1. 教育理念・目的

本校は、主に国・地方公共団体のあらゆる分野に適応できる一般教養、専門知識及び社会性を身につけた人材を育成し、もって社会に貢献することを目的とする

2. 教育目標

- ① 学生一人ひとりの夢実現を目指す
- ② 高い倫理観と豊かな人間性をもった社会人の育成を目指す

3. 育成人材像

- ・主に国・地方公共団体のあらゆる分野に適応できる一般教養、専門知識を身につけている人
- ・高いコミュニケーション能力を有し、地域社会の一員として貢献することができる人
- ・地域および社会の問題を発見し、自ら考え、実践する力を有している人

4. 運営方針

- ① 学生の満足度を向上させる
- ② 教職員の満足度を向上させる
- ③ 保護者・地域からの信頼度を向上させる

5. 本年度の重点努力目標

- ① 公務員試験一次合格率100%
- ② 社会人としての意識や行動、基本的マナーの育成

6. 評価項目別取組状況

評語について

- A 十分達成(達成率90%以上)
- B 概ね達成(達成率90%未満～70%以上)
- C 取り組まれているが成果が十分でない(達成率70%未満～50%以上)
- D 取組が不十分である(達成率50%未満)

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ
教育理念 ・ 目的 育成 人材像	1-1	学校の理念・目的、育成人材像は定められているか	A	A	・学則、ホームページにおいて明記している。【前年度と同様】 ・国家及び長崎市が求める人材像は前年度から変更がなく、長崎県が求める人材像は前年度から変更があったが、いずれにも沿っている。	・学則 ・ホームページ(学校の目的・概要) ・長崎県が求める人材	(省略) (省略) 1
	1-2	学校の理念・目的、育成人材像を学生・保護者・教職員等に周知し、理解されているか	A	A	・学則、ホームページ、教室掲示板、学生に配付した入学時伝達事項により、周知している。また、家族説明会において説明した(今年度の家族説明会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンラインで実施した)。その結果、各アンケートにおいては「学校の理念・目的、育成人材像について理解していた」という質問に対して、「強く思う」「そう思う」と答えた割合が、教職員で100%、学生が95.4%、保護者が95.8%と高く評価されている。	・学則 ・ホームページ(学校の目的・概要) ・入学時伝達事項 ・学生アンケート ・保護者アンケート ・教職員アンケート	(省略) (省略) 1 8 8 9
学校運営	2-1	運営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	A	A	・毎年度始めに具体的な事業計画書を作成している。【前年度と同様】	・今年度事業計画書	9
	2-2	人事、給与に関する規程等は整備されているか	A	A	・就業規則に定め、全職員に公表した上で職員室に備え付け、適切に運用している。【前年度と同様】 ・人事考課規程に定め、全職員に公表した上で職員室に備え付け、適切に運用している。【前年度と同様】	・就業規則 ・人事考課規程	(省略) (省略)
	2-3	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A	A	・ホームページの情報公開ページにおいて公開している。【前年度と同様】	・ホームページ(教育情報の公表)	(省略)

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ
教育活動	3-1	教育理念、教育目標に沿った教育課程を編成・実施しているか □教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか	A	A	・様々な学生を受け入れるため、昼間部および夜間部にそれぞれ複数の学科を設け、学生が希望する進路への合格を支援できる教育課程を編成・実現している。【前年度と同様】 ・公務員試験の試験種別、科目別、担当者別に正答率を集計し、出題数や正答率から、各学科の授業時間数や開講科目について見直し、必要に応じて改定を行っている。また、今年度については、大卒程度を中心に、一部の自治体で採用が始まったSPI試験に対応するため、言語分野と非言語分野のオリジナルテキストを作成、教養科目の授業の中で指導、SPI模擬試験も実施した。	・科目一覧(別科含む) ・科目別正答率集計表	(省略) 13
	3-2	課程修了認定の基準を明確にしているか。 □課程修了認定の基準を学生に理解させることが出来たか。 □課程修了認定の基準を保護者に理解させることが出来たか。	A	A	・成績評価、単位認定、課程修了認定の基準は学則に規定し、入学時のオリエンテーション時に周知している。【前年度と同様】 ・学則を入学時に学生に配付することに加え、入学時オリエンテーションやホームルーム等でも周知している。その結果、学生アンケートにおいては「課程修了の認定基準を理解していた」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が、96.2%と高く評価している。 ・家族説明会(教養重点科のみ)で卒業認定や単位認定に関する説明を行い、理解を得ている。	・学則 ・学生アンケート	(省略) 8
	3-3	各科目の到達目標、授業計画、成績評価の基準等は明確にしているか。 □各科目の到達目標、授業計画、成績評価の基準等を学生に理解させることが出来たか。	A	A	・全科目のシラバスを作成し、到達目標、授業計画、成績評価方法および基準等を明記し、ホームページに公表している。【前年度と同様】 ・シラバスをホームページに公表することに加え、成績評価方法及び基準については、教科担当者も説明を行っている。その結果、学生アンケートにおいては「シラバスは授業の目標や計画および評価方法を適切に示していたか」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が、98.4%と高く評価されている。	・学生アンケート	8

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由 (実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ
教育活動	3-4 授業評価の実施・評価体制はあるか	<input type="checkbox"/> 授業評価の実施・評価体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 授業評価の内容は、授業改善を計るためのものになっているか。 <input type="checkbox"/> 教員は授業評価の結果を踏まえた、授業改善を行っているか。	A	A	<p>・全クラスで、授業科目ごとに授業内容に関するアンケートを実施している。また、今年度は紙媒体で実施していたアンケートをGoogle Formを用いて、学生が携帯端末から簡単に回答できるように整備した。</p> <p>・前年度に引き続き、アンケートの質問項目は授業改善に繋がるような具体的なものとしている。</p> <p>・学生アンケートにおいては、授業に対する満足度は教養科目、専門科目ともに4点満点中、平均で3.7を超えており、科目ごと・質問項目ごとに見ても、最低点が3.31と、8割を超えていることから、早急に改善すべき点はなかったと考える。また、教職員アンケートにおいては、教科指導に関する設問(8～13)について、「疑問点があれば、解決できるような環境にしていた」という質問に対して、「そうは思わない」と回答したものがいたものの全体としては、改善に取り組んだと評価されている。</p>	・授業評価アンケート ・教職員アンケート ・学生アンケート	13 9 8
	3-5 教職員の資質向上のための取組が行われているか	<input type="checkbox"/> 教職員に対し「目指すべき職員像」により、求められる資質が示されているか。 <input type="checkbox"/> 資質を向上させることが出来る取組みが行われているか。	B	C	<p>・「目指すべき職員像」により、具体的な資質を示すことができている。</p> <p>・昨年に引き続き、人事考課表に基づく自己評価や賞与支給の際の学校長からの講評による、教職員自身の自主的な資質向上に取り組んだが、今年度も新たな資質向上のための取組を企画することはできなかった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって多くの研修会がWeb方式のリモートによるものに代わり、学校にいながら研修会に参加できるようになったことで、昨年度よりも多くの研修会に参加することができた。(令和2年度:1件→令和3年度:11件)また、研修会の内容は、報告書により情報を共有することができた。</p>	・目指すべき職員像 ・人事考課表 ・研修参加実績一覧	(省略) (省略) 14

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ
教育活動	3-6	業務の効率化が図られているか	A	A	<p>・各職員が組織として業務の効率化を図っていることを実感している。また、教職員アンケートにおいては「組織として業務の効率化が図られていた」という質問に対して、「強く思う」「思う」と答えた割合が、91.6%と高く評価されている。</p> <p>・業務の効率化を含めた企画提案件数は昨年度に比べて減少(12件→6件)したが、これまで紙媒体で行っていたアンケートをGoogle Formを用いたことで、アンケート結果の入力作業を省略できたことや、学生管理システムの改修などにより、一部の業務について効率化をはかることが出来ている。</p>	・教職員アンケート	9
		□各教職員が自身の業務について効率化を図っているか				・企画提案実績一覧	14
学修成果	4-1	目標とする1次合格率が達成できたか	B	B	・2つのクラスで1次合格率100%を達成することができたが、全体の昼間部1次合格率は90.0%にとどまった。	・クラス別合格実績	15
	4-2	目標とする突破率(最終合格者数/1次合格者数)が達成できたか	C	B	・昼間部突破率は、目標値の67.4%の達成にとどまった。本年度に取り組むべき課題となっていた ①本校面接対策冊子「面接の心構え」の効果的な活用法の見直し ②入学時からの面接担当者割り振り ③学生同士の面接教室の設備改善は実施できた。しかし、メンター制度については、「経過記録」の作成にとどまり、職員間での情報共有や具体的なサポートまで結びつけることができなかった。また、グループワークの指導は一部のクラスでは行うことができなかった。今年度からの実施であったメンター制度の検証を含め、早急に突破率に影響する要因を分析し、指導方法や対策内容を見直す予定である。	・クラス別合格実績	15
	4-3	長欠及び成績不振による退学率の低減が図られているか	B	A	<p>・令和3年度昼間部入学者数[*]153名中、長欠及び成績不振による退学者は5名であり、退学率は3.3%であった。よって、目標値の3%以内は達成できなかった。 ※令和2年11月及び令和3年の入学生・編入学生</p> <p>・長欠及び成績不振の要因、傾向については指導経過記録で、退学者数については学生管理システムにより把握している。</p> <p>・指導経過記録は、データとして保存されている。【前年度と同様】</p> <p>・各担任によって、個別相談・指導、保護者との連絡がなされたが、更なる退学率低減のため、組織としての指導体制を整備する必要がある。【前年度と同様】</p>	・退学者一覧	15
	□長欠及び成績不振の要因、傾向、退学者数等を把握しているか	・相談・指導経過記録運用手順				(省略)	
	□指導経過記録を適切に保存しているか	・相談記録一覧	16				
	□長欠及び成績不振者への特別指導体制を図り、退学率の低減に取り組んでいるか						

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ
学生支援	5-1	公務員採用試験に関する支援体制は整備されているか	A	A	<p>・学生が携帯端末などを用いてインターネット上で試験日程や願書案内状況、申込締切日などを随時確認できるようにしており、SPI試験に対する対策も準備するなど、受験支援体制を整備し運用している。学生アンケートにおいては「採用試験に関する説明は分かりやすく、指導も充実していた」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が、100%と高く評価されている。</p> <p>・官公庁と連携体制を整備し、ガイダンスを実施している。また、学生からの要望も多い長崎市ガイダンスを行うなど、新規の官公庁ガイダンスも実施している。</p> <p>・願書内容・採用の変更点に関して情報共有し、担任だけでなく、職員全員が学生からの相談・質問に対応できる体制を整えている。</p>	<p>・受験支援体制まとめ</p>	16
						<p>・官公庁ガイダンス実施手順</p>	17
						<p>・官公庁ガイダンス開催一覧</p> <p>・学生アンケート</p>	18 8
	5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	A	A	<p>・悩みや困りごととは担任が聞き取り、直接は言いにくい事などにも対応するため、意見箱を設置しており、学生アンケートにおいては「学校へ相談しやすい環境が作られており、適切な対応が行われた」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が、100%と高く評価されている。また、相談数も令和元年度10件、令和2年度29件、令和3年度28件と増加している。</p> <p>・「相談・指導経過記録」を作成、共有フォルダに保存・情報共有している。【前年度と同様】</p>	<p>・学生アンケート</p> <p>・相談・指導経過記録運用手順</p> <p>・相談記録一覧</p>	8 (省略) 16
	5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A	A	<p>・授業料分割納付制度を整備している 申込15件 許可15件(許可率100%)</p> <p>・日本学生支援機構の奨学金の募集は毎年実施しており、1年未満のコースの学生には国の教育ローンの紹介を行っている。今年度開始された高等教育の修学支援新制度についても案内した。いずれにおいても、利用についての相談にも適切に対応し、情報を提供している。【前年度と同様】</p> <p>・日本学生支援機構の奨学金利用について実績を把握している。【前年度と同様】</p>	<p>・授業料分割納入実績一覧</p> <p>・授業料分割納入の取扱いに関する規程</p> <p>・高等教育の修学支援新制度案内</p> <p>・日本学生支援機構奨学金案内</p> <p>・国の教育ローン案内</p> <p>・日本学生支援機構 奨学金利用者数</p>	18 (省略) (省略) (省略) (省略) 19

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ
学生支援	5-4	障がい等を理由とする配慮希望者に対する支援体制は整備されているか □受け入れに当たっての体制は整備されているか □配慮を希望した内容に沿った支援を行っているか	A	A	・配慮希望者への対応をマニュアル化している。【前年度と同様】 ・配慮希望内容を文書と聞き取りにおいて把握し、本館入口に新たに手すりを設置するなど対応している。※申請5件同意5件	・配慮希望者への対応手順 ・配慮希望実績一覧	(省略) 19
	5-5	保護者と適切に連携しているか □報告書等で、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか □個人面談等の機会を、教養重点科の保護者に提供しているか □学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか □緊急時の連絡先を把握しているか	A	A	・学生の出欠状況、模擬試験成績、担任からのコメントを原則月1回保護者へ送付している。また、受験支援体制についての説明を、家族説明会(教養重点科のみ、YouTubeにて配信)で実施。さらに、SNS(インスタグラム等)を活用して情報発信している。 ・三者面談を実施しているほか、保護者あて報告書や家族説明会において、気軽に相談して下さるよう呼びかけている。保護者アンケートにおいては「学校へ相談しやすい環境が作られており、適切な対応が行われた」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が、95.7%と高く評価されている。 ・欠席が続く、遅刻早退が多い、成績不振などの学生については担任が保護者へ連絡し、状況把握、改善に努めている。保護者から相談がある場合には、面談等、個別対応をしている。【前年度と同様】 ・入学時「個人カード」を作成し、緊急連絡先を把握している。【前年度と同様】	・保護者あて報告書(様式) ・家族説明会資料(抜粋) ・相談・指導経過記録 ・保護者アンケート	(省略) (省略) (省略) 8
	5-6	卒業生への支援体制はあるか □卒業後の公務員採用試験に関する支援体制は整備されているか □就職後の悩み、相談に適切に対応しているか □同窓会の活動状況を把握しているか	A	A	・卒業後も公務員採用試験を受験する学生に対して模擬試験の案内を送付している(上級模擬試験の案内をホームページにて案内、初級模擬試験に関しても3月頃に掲載予定)。また、携帯端末などを用いてインターネット上で試験日程や願書案内状況、申込締切日などを随時確認できるようにしている。学生の状況や学歴などを考慮して担任が個別に連絡を取ることも行っている。 ・就職先での悩み、不安などの個別相談に対応している。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、理事会等は開催されておらず、12/25の幹事会に校長が参加した。	・上級模試・SPI模試日程(HP掲載) ・初級模試日程(HP掲載) ・ホームページ(新着情報・試験情報) ・相談・指導経過記録	20 21 (省略) (省略)

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ
教育環境	6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A	A	<p>・施設・設備は、本校の目的、生徒数又は課程に必要なものを備えており、専修学校設置基準に定められている要件を満たしている。</p> <p>・土日、放課後に利用できる自習室を整備しており、学生アンケートにおいては「自習室の開放など、自習するための環境が整っていた」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が、97.7%と高く評価されている。</p> <p>・施設・設備等の定期点検を、教職員が年1回実施している。今年度は、2号館1階トイレのドアの補修、本館トイレと一部教室のドアの塗装を行った。</p>	<p>・学生アンケート</p>	8
		施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか				<p>□施設・設備は、設置基準に適合しているか</p> <p>□自習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか</p> <p>□施設・設備等の定期点検、補修等について適切に対応しているか</p>	<p>・施設設備等の安全点検チェックリスト集計表</p>
	6-2	防災に対する体制は整備されているか	A	A	<p>・法令に基づき消防設備点検を実施し、不具合箇所は適切に改善している。【前年度と同様】</p> <p>・本校施設のうち耐震化の努力義務となっている2号館については、現在建て替えを含めて耐震強化を検討している。【前年度と同様】</p> <p>本館：耐震診断及び耐震改修の努力義務なし 3号館・寮：新耐震基準により建設されているため、耐震化は不要</p> <p>・火災発生時と地震発生時の防災マニュアルを整備している。【前年度と同様】</p> <p>・年2回の自主訓練では、12月に火災時、3月に地震時の避難を想定して実施している。【前年度と同様】</p>	<p>・防災マニュアル</p>	(省略)
		防災に対する体制は整備されているか				<p>□法令に基づき、消防設備等の整備及び保守点検を行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか</p> <p>□学校施設の耐震化の推進に取り組んでいるか</p> <p>□災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか</p> <p>□防災訓練を定期的実施しているか</p>	<p>・避難訓練実施要領</p> <p>・消防用設備等点検結果報告書</p>

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ		
学生募集	7-1	高等学校等接続する機関 に対する情報提供等の取組 が行われているか	A	A	<p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、予定されているガイダンス(説明会)が見送られることもあった。それでも可能な範囲で参加したり、Web方式での説明を行うこと等により、学生に情報提供を行うことが出来た。</p> <p>(参考)ガイダンス(説明会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 参加回数 26回/参加人数 233人 ・大学 参加回数 8回/参加人数 357人 <p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、訪問について了承を得た学校に対しては学校訪問を行い、その他の学校に対しては資料を送付し、本校の教育内容や教育成果等の情報を提供することが出来た。今後の学校訪問についても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を見ながら検討していく。</p> <p>(参考)学校訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 訪問校数 19校 ・大学 訪問校数 1校 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問一覧※高校 ・高校進路ガイダンス参加一覧 ・大学訪問・進路ガイダンス一覧 	28 29 29		
	7-2	学生募集活動において、教育内容(設置学科、課程修了要件、校納金等)や教育成果(一次合格率、突破率等)等の情報は正確に伝えられているか			A	A	<p>・募集要項にて教育内容を説明会資料にて一次合格率や突破率などの教育成果を正確に、分かりやすく紹介している。</p> <p>また、学校説明会をよりよいものにするため、今年度より学校説明会の参加者に対しアンケートを実施している。学校説明会アンケート結果によると、参加者の学校説明会(全体)に対する満足度は「満足」「やや満足」と回答した割合が94.0%と高く評価されている。</p> <p>・学校説明会等において使用する資料は、適宜更新され、より正確で分かりやすいものになっている。【前年度と同様】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会参加者アンケート ・学校説明会資料 	30 (省略)
	7-3	校納金は妥当なものとなっているか			□校納金は妥当なものとなっているか	A	A	<p>・令和3年5月に開催した理事会における審議の結果、校納金の金額について、その妥当性につき了承を得ている。また、徴収する金額については全て募集要項にて明示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度第1回理事会議事録

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ	
財務	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	<input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか(事業活動収支計算書(公務員)における「経常収支差額」が収入超過であるか) <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか(貸借対照表(公務員)における「負債の部合計」が、「現金預金額」に収まっているか)	A	A	・収入超過であり、バランスがとれている。(経常収支差額:24,590,938円) ・収まっており、妥当な数値である。(現金預金:341,292,480円 負債の部合計:104,036,094円)	・前年度事業活動収支計算書 ・前年度貸借対照表	31 32
	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	<input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか(事業活動収支計算書(公務員)における「基本金組入前当年度収支差額」の予算と決算の乖離が20%以内であるか) <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか	C	C	・予算:16,420,269円 決算:24,561,801円 →差異:8,141,532円(乖離:49.6%) 予算編成時の見込み以上に学生及び寮生が増えたことによるもの。 ・行っている(5月に実施)	・前年度事業活動収支計算書	31
	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施し、改善意見について記録して適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか	A	A	・行っている(5/12監査実施) ・報告している(5/24理事会にて報告)	・前年度監査報告書 ・今年度第1回理事会議事録	33 30
	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	<input type="checkbox"/> 財務情報についてホームページに掲載するなど公開に取り組んでいるか	A	A	・公開している。【前年度と同様】	・ホームページ(法人情報)	(省略)

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由(実施状況やその成果等)	※根拠資料	ページ
法令等の遵守	9-1	関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A	A	・学校教育法や専修学校設置基準に定められている規則を遵守し、所轄庁へ必要な書類の提出を行っている。【前年度と同様】	・専修学校設置基準 ・学則 ・就業規則	(省略) (省略) (省略)
	9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A	A	・個人情報の適切な管理のために、個人情報保護規定を策定し、適切に運用している。【前年度と同様】 ・「個人情報の取り扱いについて」を入学生に配付している。【前年度と同様】 ・外部に公表する書類(合格者名簿等)に学生の個人情報を掲載する際には、利用目的を明示し個別に了承を得ている。【前年度と同様】 ・外部からの不正アクセスのみならず、学内においても不正な利用がなされないようユーザ権限に応じて実行できる機能を制限している。【前年度と同様】	・個人情報保護規定 ・個人情報の取り扱いについて	(省略) (省略)
	9-3	自己評価・学校関係者評価の実施と問題点の改善を行っているか	A	A	・学則、実施規程及び実施要領を整備している。【前年度と同様】 ・年間スケジュールに沿って計画的に取り組んだ。 ・昨年の評価結果が十分でなかった評価項目を今後取り組むべき課題として定め、具体的な取り組み方法を明確にしたうえで、学校改善に取り組んだ。【前年度と同様】	・学則 ・学校評価実施規程 ・学校評価実施要領 ・前年度自己評価報告書 ・研修実施要領	(省略) (省略) (省略) 34 (省略)
	9-4	自己評価・学校関係者評価結果を公開しているか	A	A	・評価結果は報告書を作成している。【前年度と同様】 ・ホームページにおいて公開している。【前年度と同様】	・前年度学校評価について(報告) ・ホームページ(学校評価)	44 (省略)

大区分	評価項目	評価指標(考え方・方針・目標)	R3 自己 評価	R2 自己 評価	R3判断理由（実施状況やその成果等）	※根拠資料	ページ	
社会貢献 ・ 地域貢献	10-1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の教育資源を地域・関連業界等に開放しているか	A	A	・学校の資源を開放する制度は整っていたが、長崎県からの受託事業を除いては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で実績はなかった。【前年度と同様】	・受託事業実施資料	44
	10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に支援・奨励しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの参加人数を学内で把握しているか	B	A	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により官公庁をはじめとする外部からのボランティアの募集が少なかったこともあるが、本校においても感染拡大防止を図り、積極的な支援・奨励は行わなかった。そのため、ボランティア活動の実績は0件であった。 ・ボランティア活動状況一覧を作成し参加人数を把握したが、今年度は参加者の活動実績はなかった。	・ボランティア活動状況一覧	45
	10-3	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	<input type="checkbox"/> 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	A	A	・進路ガイダンスの実施が22回と、前年度の13回よりも大幅に増加した。	・高校進路ガイダンス参加一覧	29

7. 本年度の総合的な評価結果

令和3年度 自己評価	令和2年度 自己評価	理由
B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・36項目中30項目が”A:十分達成”で全体の83.3%を占めており、前年度の86.1%からは僅かに低下したものの、全体としては各評価項目について十分達成しているといえる。 ・しかしながら、本校が学生や保護者、地域から求められている『4.学修成果』の全3項目が”B:概ね達成”(2項目)、または”C:成果が十分ではない”(1項目)だったことから、総合的な自己評価としては、”B:概ね達成”とすることとした。

8. 今後取り組むべき課題(改善策)

(1)学生に関すること

課題	具体的な取り組み方法
(評価項目4-1より) 「目標」 屋間部1次合格率100% 参考:令和3年度達成率:90.0% (2022年1月13日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の1次合格に関する分析結果をもとに、カリキュラムや各科目における指導方法、進路相談の際の根拠資料などの見直しを検討する。なお、分析にあたっては、入学試験や校内模擬試験等の成績と受験結果の相関関係、1次合格者と不合格者の傾向、科目別正答率などの情報をもとに行う。 ・SPI試験対策については、出題傾向や試験結果の分析を充実させ、対策授業や模擬試験の実施など、効果的な対策を検討する。また、高卒程度の採用試験でも一部の官庁でSPI試験が導入されたことを受け、教養重点科でも対策授業や指導等の充実を検討する。 ・現状、入学試験の筆記試験において点数が低かった入学予定者を中心に、入学前に春期講座を開講し、学力の程度に応じて「総合クラス」「数学クラス」に分けて指導を行うことで、基礎学力の向上を図っている。その中で、近年は特に数学の学力の差が大きい傾向があることから、「数学クラス」をさらに学力別に分け、各学生の理解度に沿った手厚い指導を行うなど、低学力層の底上げに繋がる取り組みを検討する。 ・昨年に引き続き、担任を中心とした模擬試験下位者への重点的な声掛けやアドバイス、指導、相談等の体制づくりを検討する。また、学生の成績をより詳しく、視覚的に把握するため、模擬試験の結果や、各科目で行われる小テストの結果を利用した仕組みづくりも検討する。
(評価項目4-2より) 「目標」 屋間部突破率 [※] 90.0% [※] 突破率=最終合格者数/1次合格者数 参考:令和3年度達成率:67.4% (2022年1月13日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に面接担当者を割り振り、学生が相談しやすい体制づくりを継続する。 ・今年度は、学生が自身で自己分析や面接指導対策を体系的に実施できるように教材の見直し、指導計画の改善を行った。1年間運用してきた中で、見つかった課題・改善点について検証を行い、突破率の向上に繋がる取り組みを検討する。 ・メンター制度について、令和3年度は各担当者が「経過記録」を作成し活用するところまでは実施できたが、職員間で継続的に情報共有、相互サポートすることについては課題が残った。1年間を振り返り、各教員が行った取り組みとその結果を共有し、制度の充実を検討する。 ・Web面接や録画面接などのように面接試験自体が多様化していることもあり、学生が面接試験をよりイメージしやすく、対応しやすいように、動画の活用や教材の見直しを含めた指導方法を検討する。 ・求められる人材により近づくため、日常の学校生活においても、「自分から行動する」「自分の意見を発言する」機会の拡大方法を検討する。 ・昨年、十分に実施できなかったグループワークの指導について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しながら実施する方法を検討する。

<p>(評価項目4-3より) 「目標」 長欠および成績不振による 昼間部退学率3%以内</p> <p>参考: 令和3年度 3.3% (2022年1月13日現在)</p>	<p>・現在も各担任によって個別相談・指導、保護者との連携がなされているが、更に職員全体での情報共有や声掛けに力を入れ、学生の悩みや不安、様子の変化に、より早く対応していく体制を整えていくことで、目標値(3%以内)を実現する。</p>
--	---

(2)教職員に関すること

課題	具体的な取り組み方法
<p>(評価項目3-5より) 教職員の資質向上のための取組</p>	<p>(能動的資質向上) ・教職員自身に次年度に向けて、自身の<u>資質向上のために</u>チャレンジしたいことを考えてもらい、年度末時点でそれをどの程度達成できたかを報告していただく。</p> <p>(受動的資質向上) ・役職または担当業務別に、<u>向上して欲しい資質</u>を学校が示し、教職員が年度末時点でそれをどの程度達成できたかを報告していただく。</p>

(3)保護者に関すること

課題	具体的な取り組み方法
<p>—なし—</p>	<p>—なし—</p>